

令和元年度下根中学校区研究協議会

協働的な学びの 哲学と理論

令和元年8月1日(木)

**協働的な学び
を支える**

哲 学

- **民主性** : 全ての子ども**の学びが保障され**
誰もが**学びの主人公であること**
- **公共性** : **公教育という使命をもち、多様な**
考えを交流するために内外に開か
れていること
- **卓越性** : 他との比較ではなく、**自分のでき**
得る最高のもの、自己ベストを追
求することに価値を見出すこと

学びの哲学に基づく 学校の姿

子どもたちがよりよい自分になるために共に学び合う場

教師も教育の専門家としてでき得る最高の仕事を目指して同僚と共に学び合う場

保護者や市民も教育活動に参加しながら新たなことを学び合う場

私たちのミッション

すべての子どもが
自分の力で幸せに
なれるようにすること

「自分の力で」とは？

- 他者に**依存**できる
- 他者と**協働**できる
- ひとりでできる

ミッション遂行の

共有ビジョン

協働的な学び ケアリング・マインド

これらに基づいた
授業・学級・学年・学づくりを

これからの社会に求められるのは

正解のない課題に向き合い

最適解を導き出すこと

多様な異なる人たちのグループで

いくつかの教科等を組み合わせせて

ICTと人間の感性を組み合わせせて

教科書の問題が解けるだけでいいのかな・・・。





授業の形

「学びの下敷き」
質の高い課題
グループ
振り返り

哲学・理論

J. デューイ
L. ヴィゴツキー
N. ノディングズ
J. レイヴ
E. ウェンガー 他

学びの下敷き ～下根中授業スタイル～

- 教師は → 「(生徒に) 教える」授業から「**(生徒が) 学ぶ**」授業へ
- 生徒の活動は → 「話し合い(伝え合い)」から「**聴き合い**」へ
- 授業は → 「教え合い」から「**学び合い**」へ

(1) 授業を始める前に、学習環境のチェック

- ①教卓の位置 → **端に寄せる** (PJ等使用する場合はこの限りではない)
- ②生徒の机上 → 筆記用具(シャープペン、消しゴム、ボールペン)、教科書、ノート
※必要でないもの、余計なものは全てしまわせる

(2) 授業開始(黄金の5分)

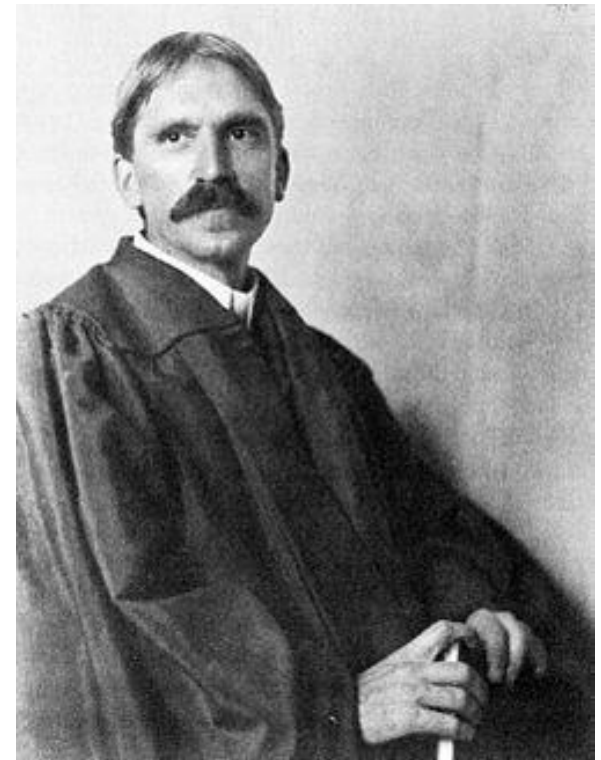
- ①時間通り静かにスタート
- ②机はコの字
- ③教師の立ち位置は、左前又は、右前 **※全員の生徒の表情が見られる位置にステイする**
- ④**抑えたトーン** → 落ち着いて思考させる
- ⑤**無駄な言葉(リボイス)を無くし、口数少なく** → 思考のじゃまをしない
- ⑥課題は「～しよう(Let's～)」(教師からの指示)ではなく
「なぜ～?、どうして～? (5W1H、特にWhy～?とHow～?)」
(生徒への問い)とする
- ⑦**5分以内にグループ学習を実施する**

(3) グループ学習(4人グループが基本)

- ①まずは**動かず生徒の学んでいる様子を見る**
- ②教師の立ち位置は、左前又は、右前 **※全員の生徒の表情が見られる位置にステイする**
※動かないで気になる生徒、学んでない生徒を見つける、意味なく歩き回らない
- ③グループ学習の島は、教師が通れるだけの**スペースを空けさせる**

まちがえてもよい
紆余曲折することに価値
知識は使えるようにする
社会における知識
「ここがわからない」
「友だちに訊いてみたら」
「資料を見るとわかるかも」
（足場かけ）
学校の中心は図書館

J. デューイ



L. ヴィゴツキー

小学校低学年は内言が未発達。

思考を援助するパートナーが必要。

発達とは自分の限界を少し超える

課題に挑戦すること

最近接発達の領域

=次に続く発達の領域

科学的知識の教授によって子供の科学的概念

の発達が終わるのではなく、まさにそこから始まる。



ヴィゴツキーの「最近接発達の領域」

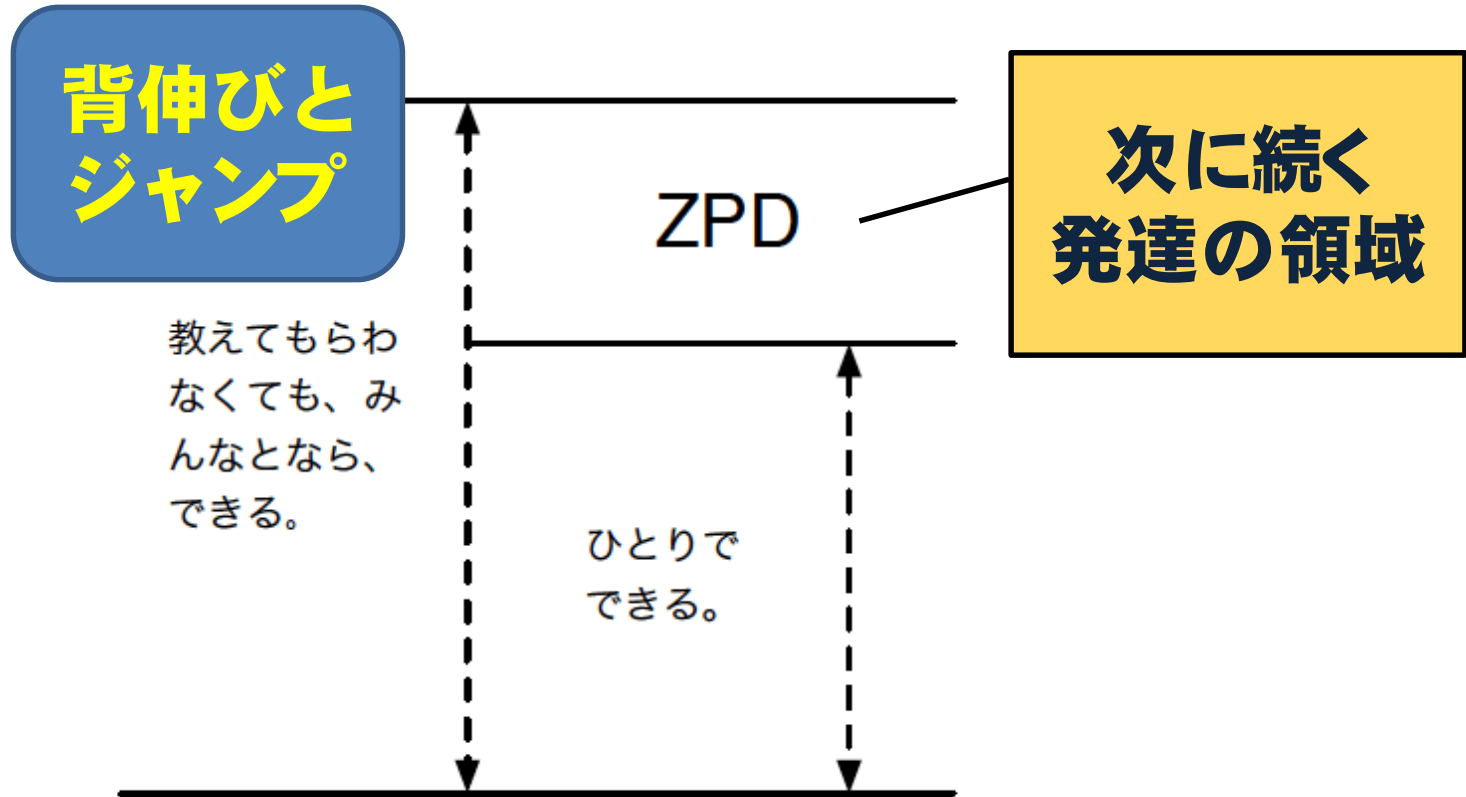


Figure: Original by Mitzub'ixi Quq Chi'j
ZPD, Zone of Proximal Development, зона ближайшего развития.
L.S. Vygotsky: Mind in Society: Development of Higher Psychological Processes, p. 86, Cambridge, Mass.:Harvard University Press.

ネル・ノディングズ



学校の第一の仕事は
子供たちをケアすること
困り感に寄り添うこと
その子を丸ごと引き受け、その
子のために心を砕くこと
ケアすること、ケアされることは
人間の根源的ニーズ
ケアリングは
呼びかけと応答で成立する

授業において「学ぶ」とは

未知の課題に出会う

個別 / 協働探究・必要なら訊く

説明をする / 聴く・モニターする

借用する・見直す・腑に落ちる

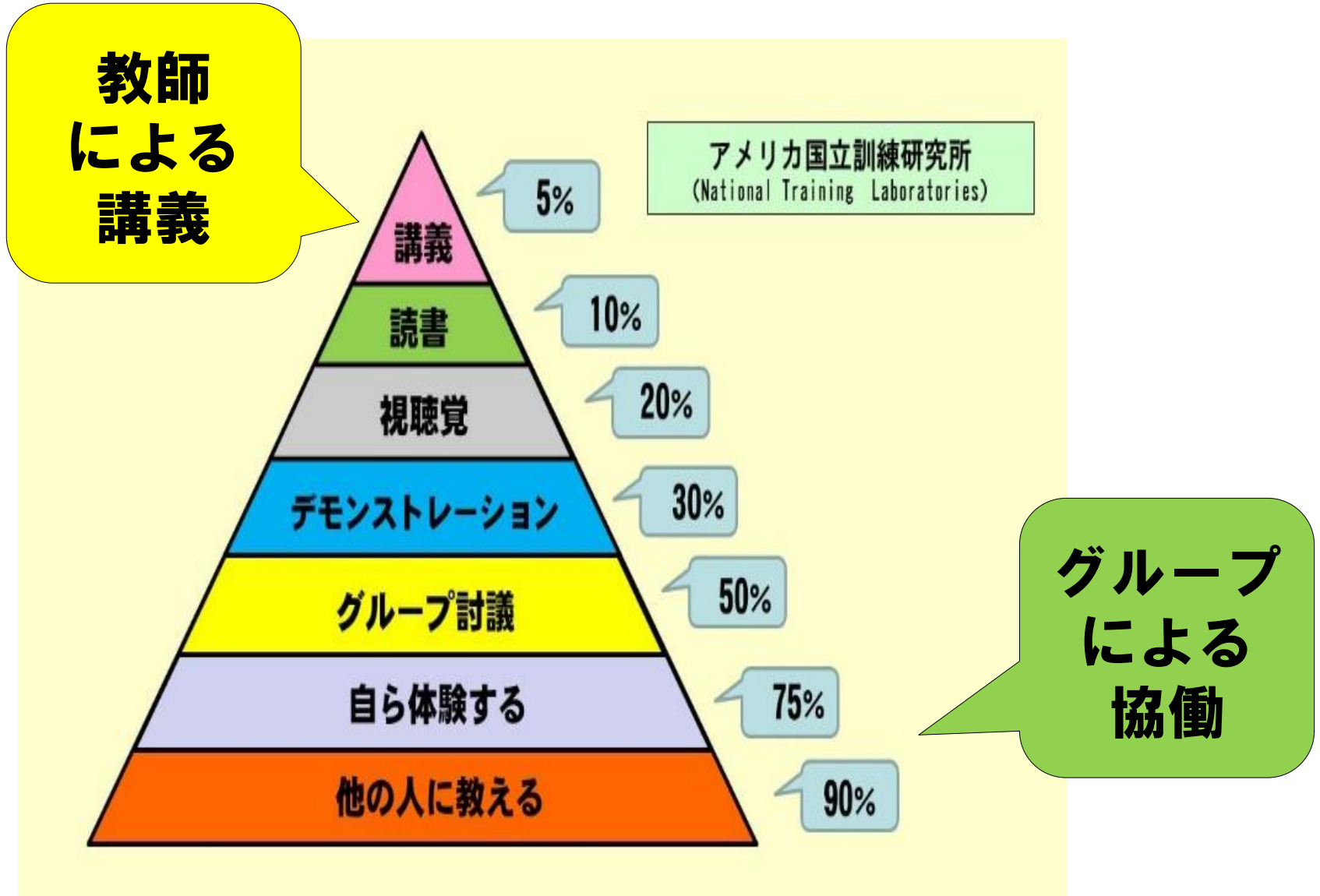
まとめる・振り返る・メタ認知する

学ぶためには

他者が不可欠

4人グループを構成する必要
(低学年はペア。内言が未発達)

学習方法による知識の定着率



学校全体で行うこと

- **授業研究**を学校経営の中心にします。
- **聴き合う関係**を学級経営の基盤とします。
(ケアリング・マインドで丸ごと引き受ける)
- **経験に関わらず学び合う授業をつくれる「活動システム」**を取り入れます。